

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

ペスチャンチョ

【英名】pez chanco

【学名】*Congiopodus peruvianus*

「チリ沿岸」の水槽をのぞくと、体の色が茶色と白のまだら模様で、口先の長い魚が目にはいります。これはペスチャンチョという魚です。ペスチャンチョとは、現地の言葉のスペイン語で「ペス＝魚」「チャンチョ＝豚」という意味があります。言われてみると正面からみた顔が豚に似ていませんか？ また水槽内には、体全体がこげ茶色になっているものもいます。これは体の表面に茶色の藻がついてしまっているのです。しかし、どんどん藻だらけになったりはありません。皮膚が古くなると細かくちぎれながら皮がむけていきます。ペスチャンチョは脱皮をする魚。水槽の中にいるのは脱皮まえ？ 脱皮あと？ さて、どちらでしょうか？

（飼育展示係 西村 大樹）



CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 上から観察! 新しくなった金魚水槽
- 干潟の生き物による水質の浄化

なぎさNEWS

- なぎさでジャブジャブ魚とり
- なぎさで探そう! こんな生き物「クロイサザアミ」

水族園のもう一つの顔

- 世界初! ミナミワトビペンギンの人工繁殖に成功

TSLP LATEST

Vol.23 No.4 2025

AUGUST

通巻

123

SEA LIFE TOPICS

上から観察！新しくなった金魚水槽

葛西臨海水族園のレストラン「シーウィンド」内にある、金魚の水槽をリニューアルしました。以前は透明の円柱水槽で、横から見た金魚の姿が印象に残るものでした。新しい水槽は昔ながらの金魚の楽しみ方を意識して、水槽の位置を低くし、のぞきこむ形状にしました。これによって、金魚のきれいな模様やヒレを上から間近に観察できるようになっています。また、水槽の中央にシダ類を植えたプランターを設置しました。これは景観が良くなるだけでなく、植物が魚の老廃物を利用することで水質の安定も期待できます。水槽横にはアサザなど水生植物の入った水鉢も設置し、全

体としてレストランの雰囲気になじみつつも「和」や懐かしさを感じる印象になりました。

金魚は突然変異で赤くなったフナを人の手で品種改良して作った観賞魚ですが、葛西臨海水族園が位置する江戸川区は、実は金魚の生産地として有名です。毎年夏には、江戸川区が中心となり、金魚をテーマにしたお祭りが開催され、水族園も参加しています。今後は東京や江戸川区で改良された品種も展示できればと考えています。水族園へお立ち寄りの際はぜひ新しくなった金魚水槽をご覧ください。（飼育展示係 遠藤 周太）



レストランの入口でのぞいてみよう！



植物の緑と金魚の色のコントラストが美しい



水鉢では水辺の植物を展示

干潟の生き物による水質の浄化

2025年7月に「干潟の浄化」水槽がオープンしました。干潟にはたくさんの生き物がくらしていますが、なかにはエサを食べたり砂を掘ったりすることで干潟を“きれい”にする生き物もいます。「干潟の浄化」水槽ではアサリとニホンズナモグリを例に、干潟の生き物による水の浄化機能を紹介しています。アサリは水を吸いこみ、エラで植物プランクトンをこしとって食べています。アサリが水と一緒にたくさんの植物プランクトンを食べることで水質の浄化がおこなわれているのです。展示

水槽では、片方にはアサリなし、もう片方にはアサリを入れた2つの水槽に同じ濃度の植物プランクトンを入れ、水の色の変化を比較することでアサリが水をきれいにしていく様子を見ることができます。緑色の水がアサリの入水管に吸いこまれていき、無色透明の水を出水管から吐き出す様子が見られるかもしれません。続いて、ニホンズナモグリは干潟に巣穴を掘ってくらす全長6cmほどの甲殻類です。深さ30cmほどの巣穴の中で、泥とともに細かい有機物を食べています。ニホンズナモグリがエサを食べたり、砂を掘ったりすることで、泥の中に空気がいきわたり、“汚れ”を分解するバクテリアの働きが活発になるのです。うすい板型の水槽では、真横から断面を見るように巣穴を観察できます。ニホンズナモグリが巣穴を掘り進めたり、せまい通路の中を器用に転回したりと活発に動き回る様子や、ときには、巣穴の中で起こした水流によって穴の外に泥が噴き出すところも見られるかもしれません。

干潟とそこにくらす生き物たちがもつ大切な役割を、この展示で観察してみてください。

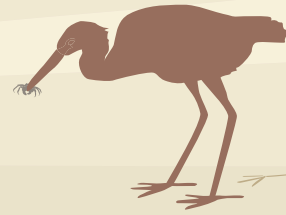
（飼育展示係 市川 啓介）



左側ではアサリ、右側ではニホンズナモグリを展示



なぎさ NEWS



なぎさでジャブジャブ魚とり

今回はおなじみの「西なぎさ」で「10分でどれだけ生き物がとれるかな!？」チャレンジとして生き物採集をやってみたいと思います。さて、このような波打ちぎわから離れた水たまりのようところに生き物はいるのでしょうか？ それでは早速、網を使って採集を試みましょう！ 網の使い方もいろいろありますが、このように浅くて底が平らなところでは、網を底に付けてダアアア〜と突進するのが効果的です。一見、乱暴なやり方で生き物が逃げてしまうと思いませんか？ さて結果はどうでしょう。お〜! ボラの幼魚やエドハゼ、シラタエビとオサガニ、ヤマトシジミなどの貝も見えますね。たった10分でこんなにいろいろな種類の生き物を捕まえることができました。この方法のコツは網のふちを絶対に水の底から離さないことです。また注意しないといけないことは、滑って転ばないこと、激しく水しぶきが飛ぶので周りに人がいないか確認することです。みなさんもぜひ夏休みは海へ出かけて生き物を探まえて観察を楽しんでみてはいかがでしょうか！（調査係 雨宮 健太郎）



よし、
やってみよう！



ダアアア〜と突進だ！



網を底に
くっつけるのがコツ



いろいろとれた！

なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★★☆☆☆

サイズ 全長1～1.5cm

見つけるコツ

クロイサザアミはとても小さな生き物なので、魚採りで使うような網では「網の目」が大きすぎてうまくつかまえないかも。金魚網のようになるべく目の細かい網を使って波打ちぎわよりもすこし沖のほうをすくってみてね。網の中でピョンピョンとはねる生き物がいたら、クロイサザアミかも。

クロイサザアミ（アミ科）

■クロイサザアミはこんな生き物

クロイサザアミは全長1～1.5cmほどの動物プランクトン。形はエビに似ているけれど、ハサミ脚はもっていないんだ。おなかの脚を使って、海の中を泳ぎながら移動するよ。メスのおなかには、保育のうという袋のようなものがある、その中に卵を産んで、ふ化するまで守るよ。

そんなクロイサザアミは水族園の目の前の海、「西なぎさ」でも、春から秋の終わりまで見ることができるよ。とくに夏には、水面の色が変わるほどの大群が「西なぎさ」にやってくることもあるんだ。

（飼育展示係 増淵 和彦）



クロイサザアミ（実物大）

水族園 のもう一つの顔

世界初！ミナミイワトビペンギンの人工繁殖に成功

ミナミイワトビペンギンは、フォークランド諸島やアルゼンチン、チリ周辺の島々に生息するペンギンで、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストでは野生での絶滅の危険性が高い危急種に指定されています。日本国内でも飼育個体数が減少しており、受精率やふ化率の低さ、飼育個体はオスが多くペアが組めないなどの問題がありました。そこで、葛西臨海水族園と海遊館は2016年から力を合わせて人工繁殖の研究をスタートし、次々と世界初の成果を上げてきました。

2016年、葛西臨海水族園で採取した精液を冷蔵保存しながら新幹線で海遊館に運び、人工授精を実施し繁殖に成功！次に冷凍保存した精液を使った人工繁殖の研究を開始しました。冷凍保存することで精液は半永久的に保存可能となり、必要なときにいつでも人工授精が可能になります。

そして2022年、葛西臨海水族園で冷凍精液を使った人工授精によるヒナが誕生し、2024年には海遊館でも同じ方法でヒナが生まれました。これらの成果が評価され、2025年5月に両水族館の研究チームが「古賀賞」を受賞しました。この賞は、希少動物の繁殖に特に功績のあった動物園や水族館に対して

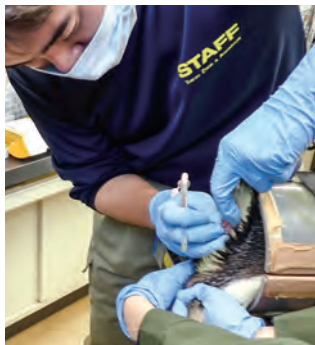
贈られるもので、葛西臨海水族園にとっては初めての受賞です！人工繁殖の成功には、いろいろな工夫がありました。まず、オスから状態の良い精液を採取し、それを冷蔵や冷凍で保存する方法を確立しました。また、産卵日を予測するために、血液の成分を調べたり、超音波で体内の卵の成長を確認したりしました。そして、専用の精液注入器具を開発して、メスの体に確実に精液を注入できるようにしました。こうした努力の積み重ねで、3羽のヒナが誕生したのです。

国内におけるミナミイワトビペンギンの個体数を安定して維持していくためには、個体数を増やすだけでなく、遺伝的な多様性を守ることが大切です。人工授精ではペアが組めなかったオスの子孫を残せるため、遺伝的多様性を考えた繁殖ができるという点でメリットがあります。また、この研究は飼育下での繁殖を支えるだけでなく、将来、野生のペンギンたちを守るためにも役立つ可能性があります。

ペンギンたちの未来を守るための挑戦はまだ続きます。ミナミイワトビペンギンを観察して、彼らを守ることの大切さをぜひ感じてみてください！
(飼育展示係 吉本 悠人)



ミナミイワトビペンギン



メスに精液を注入する



授賞式の様子（豊橋総合動植物公園提供）

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 6/12 レストラン「シーウィンド」で金魚水槽の展示を開始
- 7/3 「浮遊生物 5」水槽でコブセミエビのフィロゾマ幼生を展示
- 7/3 「アサリの浄化」水槽を「干潟の浄化」水槽として再オープン
- 7/5 「のんびり楽しむ動物園・水族園 ドリームナイト&イブニング」を実施
- 7/8 「ひんやりZOO スポット」の紹介を開始
- 7/10 「小笠原の海 4」の小水槽でスジアラを展示
- 7/10 「深海の生物 1」水槽でフクレソノガニを展示
- 7/12 「東京の海を知る・おさかなプロジェクト」合同プログラムを実施
- 7/19 海鳥フェスティバルに参加・アバターによる解説を実施
- 7/19-20 第54回江戸川区特産金魚まつりに参加
- 7/22 「小笠原の海 4」水槽のアオウミガメを小笠原へ搬出
- 7/23 「深海の生物 4」水槽でマトウダイの行動解析実験を開始



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

暑い日が続いていますね。こんな暑いのにペンギンは大丈夫なのかな？と思われるかもしれません。水族園で飼育展示している4種のペンギンのうち、亜南極に生息しているミナミイワトビペンギンとオウサマペンギンは、夏の間、冷房の効いたバックヤードですごしています。展示場で見られるようになるのは涼しくなる秋ごろ。また会えるのが楽しみです。（田中）

SEA LIFE NEWS 通巻 123

Vol.23 No.4 2025 AUGUST 8月1日発行（次号は2025年10月発行予定）

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

